



子ども大学学生新聞

第43号
子ども大学
かわごえ新聞部

性格は生まれてから変わる

岩田浩平先生「みんなちがっておもしろい」

二〇一八年一月二十七日(土)午後一時四十分から、東京国際大学第一キャンパス314教室で、東北文教大学短期大学部教授、松田浩平先生による授業「みんなちがっておもしろい」自分の性格を知ろう」がありました。太陽は出ていましたが、風が強く、はだ寒い日でした。そんな中、四年生二九人、五年生三一人、六年生二六人、合計八七人の学生が出席しました。



「個性のある人とは？」という問いかけから始まり、個性とは心理用語で性格のことだと教えてくださいました。

「個性や特徴を持っていること、それが個性なのです。古い時代には、人の性格は生まれつきだと思われていました。そして、その性格をいくつものタイプに分けて考えていたそうです。しかし、今では性格は、人が大きくなるにつれて環境などによってつくられていくことを教わりました。人の変わらない特徴は、顔、体つき、血液型、遺伝子など生まれ持ったものです。ここで、受付で配られた性格検査表に、みんなが回答しました。五一ある検査項目を先生が一項目ずつを読み上げていきます。「ほかの人に比べて、元気に行動するほうです」「思いやりがあるほうです」「いじめられている子を見ると、助けてあげたくありません」……。私たちは回答用紙にある項目ごとの「はい」「いいえ」のどちらかをチェックしていきます。そしてお手伝いの東京国際大学の学生たちが回収していききました。

この検査で自分の性格が分かるそうです。そのパーソナリティーの五つの性質について教わりました。授業を聞いてい

て、自分と相手の個性を大切にしたいと思いました。

(藤山七海記者 霞ヶ関南小6年、河原美佐子記者 中央小4年)

自分の性格が分かる

二時間目は、パーソナリティーの五つの性質を



くわしく説明してくださいました。五つの性質にはそれぞれ二種類あります。その傾向は大きく異なります。たとえば、外向的な人は、「初めて会った人でも、すぐ友達になつて、いっしょに遊んだりする人」。内向的な人は、「友だちは少ないですが、友だちとはしつかり信頼(しんらい)できる人」です。協調性(きょううちようせい)のある人は、「周りの人から自分の考えたこととちがうと言われると、周りの人の考えややり方にしたがう人」です。独自性(どくじせい)のある人は「自分の考えや、やり方をとらぬこうとする人」だそうです。

また、勤勉な人は、「最初に決めたやり方で最後までがんばろうとします。むづかしいことには努力してやりとげよう」とします。工夫するタイプの人は、「いろいろな方法を試そうとします」。情緒の安定性のある人は、「少しぐらいのことでは気分は変わりません。どんなときでも普段の気持ちのままです」。敏感な

人は、「ちよつとしたことで気分が変わります。いろんなことに気持ちがあわくで、細かいことにも気が付きます」。先生は人の性格を分かりやすく教えてくださいました。

こうした説明のあと、一時間目に回答した性格検査の採点結果が配られました。採点用紙には、性格の傾向について「かなり」「やや」「ふつう」「やや」「かなり」のいずれかにマークされていました。性格検査の判定結果として、「かなり外向的」とか「やや協調性がある」ということが分かります。

先生が「すべて、ふつうの人？」と聞くと、手を挙げた人は、とても少なかったです。そして「人には誰でも、その人らしさという個性があります。性格は生まれつきで決まっています。成長するにつれて変わっていくものです」と話されました。

そして最後に、「お互いの個性を認めあうことで、自分もみんなも成長できることを覚えておいてくださいね」と話されました。

(吉田真奈記者 坂戸市勝呂小5年)

☆岩田先生にインタビュー

Q なぜ、このような授業をしようと思ったのですか。

A 性格については気になる人も多いし、性格などを間違った情報で信じている人が多いからです。また、科学的に測ったことがなかったので、あのテストをして、性格の話をしました。

(野口 和記者 仙波小6年)

Q 人の性格の違いに興味を持った。なぜ心理学を選んだのですか。



画・森下遥稀 記者

A はじめは工学の研究をしていました

Q が、やっているうちに、人の性格の

A 違いに興味を持ったからです。

Q なぜ教授になつたのですか。

A 教授にならないとできない研究がし

たかつたからです。

A なぜ「性格がすべて普通」が珍しい

のですか。

A すべてが普通になる確率が「5×5

×5×5×5」人(3125人)

に一人だからです。

Q なぜ、いろいろなの

A (塩野 真記者 川越西小4年)

心理学の世界はぎつくり言つと、どのようなものですか。

A 心理学とは、心と行動の学問であり、科学的な手法によって研究されます。そのアプローチとしては、物理的な考えで行動や見え方(認知)を客観的に観察しようとするものと、主観的な経験や体験を理論的な基礎に置くものと、二つがあります。

Q 心理学は、自分の性格・性質の他に何を学ぶことができますか。

A 心理学で学ぶ内容は、主に大きく二つに分かれています。科学的なアプローチを重視した心理学と、精神の状態を客観的に測定する心理学の二つです。

Q なぜ、人間ははじめののでしょうか。

A 人間一人一人が持っているパーソナリティを認めず、自分と違う考えを持つたり、行動したりする人を排除しようとする姿勢が、はじめを引き起こします。でも、はじめは減らせますが、無くならないと思います。(高橋るり子記者 霞ヶ関南小6年)



・思いやりのあるほうです。

・いろいろなことをたくさん知っています。

・だいたんなほうです。

・だれにでもしんせつにするほうです。

からかわれると、たいたい、けつたりすることがあります。

・きんちようして、イライラすることがよくあります。

・すぐにけんかをしてしまいます。

・いつも気に入らなくて、ぶすつとして

〈性格検査の一部〉

ほかの人とくらべると、元気に行動するほうです。

います。

☆記者の授業感想

どんな性格に変わるのか楽しみ

◇秋山花那記者 鶴ヶ島二小6年

私はこの授業を聞いて、生まれつき決まっているものが気になりました。生まれつき決まっているものは、性別や身長、顔の持ちよう、体の持ちよう、血液型、遺伝子の配列などです。そこで私は疑問を持ちました。性格も生まれつき決まっているんじゃないかと。けれどそうではありませんでした。性格は、これからも変わっていくものだと先生はお話ししてくださいました。だから私はどんな性格になるのか楽しみで

◇新井悠希記者 大東西小5年

この授業を受けて、いんしょうにのこつたのはクローンです。クローンはいんしょうが同じなので、すべてが同じなのだと思つていましたが、成長の速さなどで、変わるということを知りました。

◇吉田真奈記者 坂戸市勝呂小5年

三毛猫の例を聞いて、クローン生物が同じ遺伝でも、違うものができることにびっくりしました。ひふの成長や、育つ環境によって違うそうです。生まれてから決まる性質が、たくさんあることを知ることができました。また、個性を認め合うことの大切さを、あらためて知りました。

◇森下遥稀記者 南古谷小5年

ぼくが一番印象に残つたのは、猫の毛



画・野口和 記者

の遺伝です。猫の子を産ませても、同じ毛の色にならない。その話を聞いて、一人一人が個性的でいいんだ、同じ人なんていないんだ、という印象が強よかったです。

一時間目にやった性格テストのようなもので、自分の性格を知り、一つも「ふつう」がなかったの、おどろきました。今回の授業で、みんながちがうということを知りました。自分のことだけでなく、ほかの人のことも、ちゃんと理解しようと、あらためて思いました。

私と小鳥と鈴と
金子みずぶ

私が両手を広げても、お空はちつとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速く走れない。

私がかからだをゆすつても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんの唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。